



# 道

学校の教育目標  
「ともに学び、  
心豊かで  
たくましい  
子供の育成」

## \* 大丈夫ですか？ ネット依存 \*

校長 宮島和生

子供たちの大きな成長が見られた運動会が、ついこの間のように感じられますが、はや1か月がたとうとしています。近頃は、朝夕の気温も随分下がり、衣替えの季節となりました。学校では、子供たちが校外学習に出かけたり、絵画展の作品作りに取り組んだりしている姿をよく見かけます。今後は、学習発表会に向けての活動も始まります。秋の深まりとともに学校生活も文化的内容の時間が多くなっていきます。

さて、8月の北日本新聞に「県内小学生ネット依存4.2%」という見出しで、気になる記事がありました。ご覧になられた方も多いと思います。インターネットの利便性と問題点は、すでに保護者の方もご承知だと思います。以前よりネット依存やSNS利用をめぐる犯罪に巻き込まれる危険性は問題視されてきましたが、その割合は年々高くなっているようです。見出しの数字だけをとらえれば、小学生の25人に一人、つまり各学級に、およそ一人以上の割合でネット依存の子供がいるということになります。2年前に調査されたデータを基に算出されたものなので、とりわけコロナ禍の今年度はさらに高くなっているものと思われます。

記事によると、インターネットを娯楽のために利用する時間が1日3時間を超えると、依存率は急激に高まるそうです。また、オンラインゲームに熱中し、ネット上でのけんかに発展した「人間関係のトラブル」や有料コンテンツを利用する「課金」を経験した子供の割合も、ネットの利用時間が長くなるほど高くなることが明らかになったようです。だからと言って、小中学生のスマホやPCの利用を否定するわけではありません。学校の授業や家庭での学習や情報収集に大いに利用していくべきだと思っています。

そこで、今一度見直していただきたいことがあります。みなさんのご家庭には、子供たちとのネット利用の約束事はあるでしょうか？トラブルや犯罪に巻き込まれるケースには、生活習慣や家庭環境との関連性もあつたようです。ルールを決めることはもちろんのこと、「親子の会話」を増やしたり「遊びや趣味」を一緒に楽しんだり「豊かな感情」を育てる体験を行ったりすることが大切です。周囲の大人がサポートすると同時に、私たち自身のネット利用の仕方が、子供たちに影響を与えていないか考えてみる必要があるようです。



【プログラミング学習の授業から】